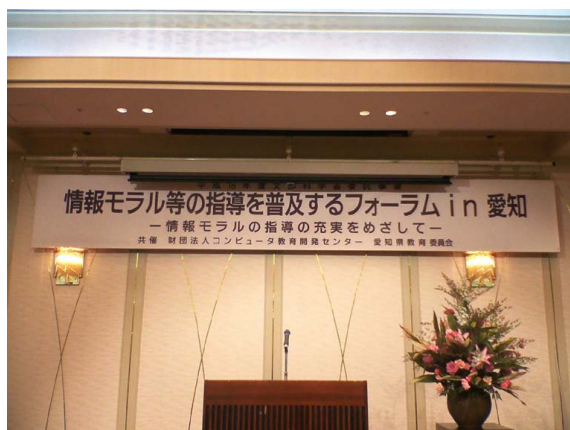


愛知県

| | |
|------------|---|
| 日時 | 平成 18 年 11 月 15 日 |
| 開催場所 | ルブラ王山 |
| 参加人数 | 303 人 |
| フォーラム名 | 情報モラル等の指導を普及するフォーラム in 愛知 ～情報モラルの指導の充実をめざして～ |
| フォーラムの狙い | 児童生徒が情報メディアを活用することによって生じる事件・事故等のトラブルの防止のためには、児童生徒自身の情報モラルやマナーの育成は必要不可欠である。この課題に対して・学校の果たす役割について考え、情報モラルに対する意識を高めるために実施する。 |
| 1 部 講演① | 東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 赤堀 侃司 「情報モラルの指導・育成のポイント-子どもを取り巻く環境の変化-」 |
| 1 部 講演② | 鹿児島県志布志市教育委員会 学校教育課参事兼指導主事 辻 慎一郎 「児童生徒の主体的な活動や保護者・地域との連携による情報モラルの指導」 |
| 2 部 講演③ | 株式会社ディアイティ セキュリティビジネス ガバメントビジネス部マネージャー 山田 英史 「学校の情報管理と情報セキュリティー」 |



<講演の概要>

「情報モラルの指導・育成のポイント-子どもを取り巻く環境の変化-」

- ・学校の論理が役立たない。学校以外の社会が子どもたちの社会に入り込んできている。
- ・今の世の中は、専門家にだまされる時代である。そういう認識を持つ必要がある。とにかく、だまされやすい時代である。
- ・学校では、教師と子どもの一対一のコミュニケーションの機会や子どもどおしのコミュニケーション

ョンを作っていくために、協力的な体験活動を行うことを意識していかなければ、現状は打破できない。

- ・携帯電話やモバイルは、もはや体の一部のようなものである。また、薬のようなもので、健康になる薬もあれば、不健康になる薬もある。
- ・ 情報モラルの育成のためには、
 - ① 本物に触れさせることが大切である。
 - ② コミュニティを作り、その中で役割を持たせたり、上級生を見て育つ機会をつくったりして、自分で何をしたらよいかを考えさせたい。
 - ③ コミュニケーション能力を育てる。(直接声をかける機会を必ず持つようにする。フィードバックを与える。やさしさだけではいけない。)
 - ④ 自分軸を持たせる。(プレゼンテーション授業、日本語の授業、レポートの掲示。繰り返すことで気づかせる)
 - ⑤ 子どもは距離を測る。(子どもは教師や親と交渉している。ここからこちらはよく、ここから先はだめという境界線を知りたがっている。境界線の内か外かで決まる。)
- ・インターネットも携帯電話も使い分ければよい。使い方をきちんと教えないといけない。キーワードは、コミュニケーション、境界線、表現力だと思う。

「児童生徒の主体的な活動や保護者・地域との連携による情報モラルの指導」

- ・ちょっとした取組をみんな(教師、保護者)でやるのが、情報モラル教育の充実につながる。
- ・情報モラルの育成のためには、被害者にしない、加害者にしない教育が必要である。
- ・情報モラルの指導領域は、法律や慣習、モラルの必要性の範囲内のことだと思う。
- ・「我が家のインターネット利用〇カ条」を各家庭で作成することで、親が心配していることを子どもに分からせるだけでもよい。
- ・教師への研修は、例えば、Webを利用して、「情報モラルとは」の段階(「ネット社会の歩き方」活用)、「具体的指導の方法を知る」の段階(「情報モラル研修教材2005」活用)、「指導案づくり」の段階(「情報モラル授業サポートセンター」活用)と段階別に深めていくとよい。
- ・インターネットや携帯電話は、99%の光と1%の陰がある。従って、情報モラルを意識しながら、積極的にインターネットや携帯電話を活用させていけばよい。
- ・データの暗号化や完全消去ソフトを活用して、個人情報保護に対応していく時代である。

「学校の情報管理と情報セキュリティー」

- ・教える側(大人)も情報モラル教育を受けていないので、経験・知識が十分でない。ネット社会は、匿名性、いきなり世界とつながる、大量の情報が流通、違法な情報や有害な情報も含まれている、個人の発信する力が増幅する、段階的に経験できないという、特異性がある。この特異性を理解することが必要である。
- ・ネット社会であっても、80%は現実社会と同じモラル教育でカバーできる。
- ・情報モラル教育と情報セキュリティー教育は、似ていて異なるもの。共に危険回避を目的とするが、情報モラルは怪しい場所をかぎ分けたり、危ない誘いに乗らないための経験則を教える。情報セ

セキュリティは、ウイルス対策や情報漏えい対策などのテクニックを教えることである。

- ・学校でのセキュリティのポイントは、機密性（情報の保持）、関連性（情報の正確性）、多様性（必要なものを取り上げる）の3つである。
- ・生徒への指導のポイントは、個人情報が悪用されることを認識させること、加害者になる可能性を認識させること、個人情報の保護を徹底させること、特にパスワードの保護が重要である。
- ・データの暗号化は、安全というより安心対策である。

<考察>

- (1) 講演①赤堀先生には、急激な社会の変化に伴う子どもの変化。とりわけ、インターネットや携帯・モバイルの影響について、詳しくお話いただき、改めて、子どもを取り巻く環境の変化について考えさせられた。こういった状況の中で、児童生徒に情報モラルを育成するための5つのポイント（本物に触れる、コミュニティをつくる、コミュニケーション能力を育てる、自分軸を持たせる、子どもは距離を測ること）や、インターネットや携帯の上手な使い方の指導のキーワード（コミュニケーション、境界線、表現力）を、今後の学校現場での情報モラルの指導の指針として示していただいた。
- (2) 講演②辻先生は、子どもを取り巻く教師や保護者がみんなでちょっとした取組を進めていくことで情報モラルの指導が充実できることを強調された。また、校内研修の例、保護者対象のワークショップの例、情報モラルの指導に利用できるURLの紹介等豊富な実践事例をまじえて、明日からでも利用できるような指導方法や指導のヒントを具体的に教えていただき、大変参考になった。辻先生が、最後に引用された「ブレーキは走るためにある」という言葉に、情報モラルとは何かということが理解できたような気がした。
- (3) 講演③山田先生には、情報モラル教育と情報セキュリティ教育を混同している現状やその問題点、また、個人情報漏えいの防止を中心に、学校の情報セキュリティのポイント（機密性、関連性、多様性）や生徒への指導のポイント（個人情報が悪用されやすいこと、加害者となる可能性、個人情報の保護、特にパスワードの保護）についてわかりやすくご指導いただいた。児童生徒への指導を推進していくためにも、教職員の共通理解を図り、情報セキュリティの強化を図らねばならないという危機感を感じた。
- (4) 辻先生の調査票については、回収できず辻先生にご迷惑をおかけしました。会場内の座席（机あり）が、横6人×4列＝24人、縦「14列であり、講義①（赤堀先生の講義）後5分以内に、フォーラム担当の3名の指導主事で300名以上の参加者から調査票回収は困難であると、独断で判断してしまいました。やはり、事前回収ならば、参加者公募の際に配付できる形がとれるような時間的余裕を持って企画するべきであったと思います。
- (5) フォーラムには、市町村や各学校から、指導主事や情報やネットワーク管理者等、情報教育の指導的役割を担う人を各市町村から2名、県立学校からは1名ずつ参加してもらった。著名な委

員の先生の講演の内容も、具体例や誰にでも起こりうる個人情報保護を考える場面等がふんだんに取り入れられ、現場に即した大変分かりやすいものであったので、熱心に聴講できた。

今後、参加者が、市町村や各学校の実情に合わせ、フォーラムの成果の輪を広げ、情報モラルの指導の普及・促進の推進役として活躍されることを大いに期待している。